

- 13) ——— (1973) Ditto II. Ibid. 22: 7-11.  
 14) 伊藤市郎 (1965) 興味深い淡水藻チリモ類. 採集と飼育, 27: 124-133.  
 15) 西河幸雄・水野寿彦 (1969) 大阪府下南部溜池に出現する *Micrasterias* 属. 藻類, 17: 4-9.

### Prof. Dr. F. GESSNER の訃

旧聞になるがキール大学海洋研究所 GESSNER 教授は、1972年12月20日、突然心臓病でたおれ67歳をもって永眠された。先生のもとで研究されたことのある尾形英二先生が、3日前やはり心臓病でたおれその逝去を知らせた返信に、GESSNER 先生の訃報が届いた。先生はまだ現役の植物部門の主任教授で、活発に海藻の生理に関する研究活動を続けられておられた。出身はオーストリアで、ソルボンヌ大学に学ばれ淡水植物、海藻の生理学を研究されて、ミュンヘン大学教授の時に日本の研究者にも広く読まれている古典的な大著の *Hydrobotanik I, II* をまとめられた。歴史の長い *Int. Revue ges. Hydrobiol.* の編集者として苦勞され、また研究室には、ドイツ国内ばかりでなく世界各国からたえず留学生が訪れていた。筆者は10カ月教授のもとで学び再会を誓って帰国後1カ月あまりして訃を知った。

先生は2度ほど日本を訪れ、日本の海藻の養殖技術を高く評価されており、研究所の一角に海苔や写真を展示されていた。日本の研究者との交流を強く望まれており、すでに次の日本からの留学生を予定されていたとのことで、非常に残念でならない。しかしキール大学海洋研究所、植物部門には Dr. SCHWENKE (海藻植生), Dr. SCHRAMM (海藻生理生態), Dr. HAMMER (海藻生理), Dr. NEUMANN (分類) の30代、40代の若手のスタッフがそろっており大学院生も数人いて活発に研究活動を行なっている。皆日本の研究者の動きに注目し交流を望んでいる。

毎朝、顔をあわすと日本式に深く御辭儀をされて笑顔でむかえてくれた先生を忘れることができない。心から御冥福を祈る。(大野正夫)